

令和7年度 第3回 大阪市立野中小学校園 学校協議会 実施報告書

校園名 野中小学校

校園長名 打川 和美

日時	令和7年3月13日(金) 18:00~19:00	
場所	野中小学校 2階 生活科室	
出席者	委員 など	小澤 明(会長) 春本 良子(委員) 辻川 松子(委員) 藤村 卓樹(委員) 山本 睦(委員) 新田 歩美(委員)
	校園	打川 和美(学校長) 金子 俊彦(教頭)
	区役所	堀 俊一(健康推進担当課長)
議題	(1) 開会の言葉 (2) 会の成立 (3) 運営に関する計画について(最終報告) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について 学校生活アンケートについて (5) その他 (6) 閉会のあいさつ	
協議 要旨	協議の結果	
	(1)	○開会の言葉
	(2)	○会の成立の確認。 委員5名中5名出席。
	(3)	○区役所よりお知らせ。
	(4)	令和7年度運営に関する計画 最終報告について報告し、承認が 得られた。 ○「安心・安全な教育の推進」に ついての2つの取り組み「安心・ 安全な教育環境の実現」「豊かな 心の育成」と、それぞれの達成状 況の説明を行った。 ○「未来を切り拓く学力・体力の 向上」についての2つの取り組み 「誰一人残さない学力の向上」 「健やかな体の育成」と、それぞ れの達成状況の説明を行った。
	意見の概要	
	○自己肯定感や自尊感情というのは、アンケ ート当日の児童の心の状態に左右されてしま うところがある。数字だけを追うのではなく、 児童の日常の様子が大事である。 ○規範意識を高めていく話の中で、遅刻対策 のことがあったが、どのようにしていくの か。家庭的な事情についての言い訳をすれば 許されてしまうような昨今である。基準がし っかりすることでよい方向に向くように期 待したい。 ・8:25に教室で座っていることを目指して いるが、3学期は特に遅刻が増えている。時 間を過ぎても急ぐ様子のない児童がいて、意 識を変えたいと考えている。取り組みの一つ として、8:25のチャイムで玄関の扉の片方	

	<p>○「学びを支える教育環境の充実」についての3つの取り組み「教育DX」「生涯学習の支援」「家庭・地域等との連携・協同した教育の推進」と、それぞれの達成状況の説明を行った。</p>	<p>を閉め、教員が立って遅れてきた児童に「どうしたの」「大丈夫」と声をかけることで、児童の意識を変えたい。現在その取り組みを行うことで、遅刻者が5分の1まで減った。</p> <p>○遅刻する児童は、ある程度決まっている。見守りで声をかけると「ふふふっ」と笑って行ってしまう。遅刻することに抵抗がなくなっているので、意識を変える働きはとてもよい。</p> <p>○児童理解や教員の質を上げるためにどのようなことをするのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、若手教員がどんどん増えている。多様な児童の対応に困っているところがある。特別支援についての研修を行うことや教員間での児童についての情報共有を定期的に行うことにより、多様な児童への理解を深められるようにしたい。 <p>○体力の向上は、授業だけでは難しいので、決まった休み時間に、外へ出て遊ぶようにするとよいと思う。</p>
(5)	○その他	
(6)	○閉会の言葉	
協議資料	<p>○令和7年度 大阪市立野中小学校 第3回学校協議会次第</p> <p>○令和7年度 運営に関する計画（最終報告）</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果</p> <p>○学校生活アンケート（前後期）結果</p> <p>○保護者アンケートの結果</p>	
備考	<p>傍聴者[0]名</p>	